

感染症の園内感染・まん延防止対策 — 保護者に協力してもらおう体制とは —

国立感染症研究所 感染症疫学センター 菅原民枝 大日康史

■ 保育所における感染症対策の「予防体制」とは？

保育所における感染症対策における基本的な考え方は、保育所は体力、免疫力も弱い乳幼児が集団で生活をする場であるため、感染が拡がりやすい状況にあり、感染拡大の被害を最小限に抑えることが求められる、ということです。乳幼児においては予防接種において防ぐことが可能な疾患以外は、生後初めて集団生活をする場で病原体の曝露を受け、初感染することが多いため、感染症の発症はやむを得ないことが多いです。その場合でも、健康被害を最小限に抑えることが大事です。感染症が拡大してしまうと、リスクが高い者を巻き込み、入院が必要なほどに重症化し、最悪の場合には死亡に至ることもありうるためです。リスクが高い者には、0歳児、1歳児のまだ歩行も自分でできない乳児、慢性疾患を有する乳幼児、その日体調の悪い乳幼児や職員を含められます。

したがって感染症を①**予防する体制**を整備しておくことが重要で、日常から予防対策を実施し、発生時には感染の拡大防止のための迅速で適切な対応が必要となります。そのためには、嘱託医や医療機関、保健所等の協力、指導を日頃から受けておき感染症対策を推進することが重要です。つまり日頃からの②**連携**です。

■ サーベイランスとは

この予防する体制こそが「保育園サーベイランス」です。サーベイランスは調査・監視をして対応するという意味があります。「今日は0歳児クラスで発熱での欠席者が1名いる。1歳児クラスでみずぼうそうの欠席者が1名いる。」この内容は、保健日誌に記載があります。記載した内容で、

日々の状況を記録し整理しておく、異常に気が付くことができます。そこで対応をとることができます。対応をとるところまでがサーベイランスです。「報告する」という意味ではありません。サーベイランスとは対策をする人々に、サーベイランスで得られた系統的に収集されたデータを、解析や解釈をおこない、「情報」として伝える(用いる)ことです。決してサーベイランスは入力目的ではありません。また情報収集が目的ではありません。「対策をする人々」のために、「情報」を伝えるためにサーベイランスがあります。

■ 対策をする人々とは誰のことを認識することが大事

対策をする人々とは誰のことでしょうか。

第一には保育所の先生、職員の方々です。そして、園医、保育課、保健所感染症対策部局、関係機関(医療機関、医師会、国立感染症研究所、地方衛生研究所等)ですが、園児と最も接する時間が長いのは保護者です。保護者は感染症対策をする人々であると認識していますか？ここで、しっかり認識しておくことが大事なのです。何故ならば、園内では、感染症の流行に応じた対策が行われますが、家庭内でも同じことを行うことができないと、対策としては継続されません。園児の体調の変化は園内で起こるだけではなく、家庭にいる時、たとえば夜中や朝方に急に嘔吐があったり、発熱がみられたりすることがあります。そうしたときに、対策をする人々として保護者が位置づけられているならば、当然にサーベイランスで得られたデータから情報が保護者に伝えられます。そうすると、家庭内でも迅速に対応することができますし、対応の仕方を伝えておくことで家庭内感染の拡大を防ぐことができます。弟、妹に新生児、

乳児がいることもありますし、祖父、祖母と同居していることもあります。そうしたリスクの高い人々を守ることができます。また、家庭内での体調の観察もしやすくなり、ちょっとした変化にも気が付くことができ、早期に医療機関受診や身体を休めることが可能になります。

■ 保育園の感染症対策で困っていることとは？

保育園サーベイランスを導入していない地域において、2013年8月にアンケート調査を行いました。感染症対策で困っていることについて尋ねました。そこに下記のような意見が寄せられました。

- 感染症や病気に対する保護者への意識付けが難しいです。
- 前日、嘔吐や熱があっても黙って登園させる保護者に対して理解の求め方。
- 症状が落ち着いていなくても登園してくるご家庭があり困っている。
- 感染症罹患後、保護者の仕事上の関係等で体調が戻らないうちや他児への感染の危険があるうちに登園する子どももいて、保護者教育や支援の方法が難しくなることがある。
- 感染症が流行しているのに親の判断で通院してくれず、病名が分からず短期欠席で登園する子がいる。
- 感染症が疑われるお子さんの保護者に受診をお願いしても、仕事の都合ですぐに受診できずに保育をお願いされたり、園で感染症が流行していることを受診の際に医師に話さないと感染症ではないと言われ、登園してきてみれば、様子がおかしく、再度受診をお願いすると感染症だったことがある。
- 登園許可証が必要ない感染症に関しては、治りきらないうちに登園し、感染が広がるケースが多い。保護者へどのように伝えていったらよいか。
- 毎日園内の感染症流行状況を出してはいるが、保護者の感染症への意識が園とずれているためなのか、効果的な感染症予防につながる

らないので、効果的にお知らせを出す方法を知りたい。

- 子ども達の具合が悪くても、感染症の疑いがあっても園に来てしまったり、家族が感染症になっていても知らせてくれないので、保育園で感染が拡大してしまう。どのようにしたら保護者がわかってくれるか困っている。

このような保護者の理解と協力を求めている回答が最も多かったです。

■ 保護者に園内感染まん延防止対策に協力してもらおう体制づくり

どうしたら、前日、嘔吐や熱があったことを保育所に報告してくれる状況になるでしょうか。どうしたら、症状が落ち着いてからの登園にできる状況になるでしょうか。どうしたら、すぐに受診できる状況になるでしょうか。どうしたら、感染のまん延防止対策に保護者に協力してもらえる体制にできるでしょうか。

先のサーベイランスの目的の話に戻りますが、サーベイランスはシステムへの入力や行政への報告が目的ではありません。「対策をする人々」のために、サーベイランスがあります。つまり、保護者への情報提供のために活用するためにあります。保護者は重要な対策をする人々として認識し、そして対応をする人々として位置づけられているでしょうか？

保護者は、子どもの体調管理、健康管理はしなければなりません。日頃から様子を見て、発熱や鼻水、鼻づまり、咽頭痛、咳などの急性期呼吸器症状、下痢、嘔吐、発疹等の症状が出ていれば、その症状を緩和すべき対処をとらなければなりません。子ども自身の苦しみを理解し、子どもに寄り添って看病をし、早期の回復を願っています。しかしそうした思いがあっても、前述のように保育所の先生を困らせることとなります。なぜでしょうか？おそらく大きな要因は、こういった子どもの症状が発現することが突然に起こり対応に困るためです。急に発現するため、心構えができていないためです。結果として対応に苦慮します。

心構えがない状態で事態に遭遇するので、症状が落ち着いていなくても登園させたり、受診できなかったり、対応できないまま、になってしまっているのではないのでしょうか。そうすると、園内での感染拡大の原因にもなるでしょう、それよりも第一に子ども自身が身体を休めたいときに、休ませてあげられません。回復が遅れ、最も健康被害を受けるのは子ども自身です。

そうわかっている、なぜ、対応ができないのでしょうか。なぜならば、保育所に通園する保護者は就労しているためです。多くの場合、突然に仕事の調整をすることは難しいです。保育所から発症の連絡を受け、お迎えに行きたい気持ちではいるものの、今すぐ職場を離れることは非常に困難です。あらかじめ発症するかもしれないことが分かっている場合は、仕事を調整し、子どもに寄り添うことができます。しかし、突然なので、夕方までの仕事、翌日既に計画された仕事の段取りを変更することができない結果、仕事を休んで看病をすることができません。看病のためのお休みをとれないのではなく、お休みをとるために仕事を調整するタイミングがないのです。その結果、嘔吐や熱があったことを保育所に報告したら預かっていただけないのではないかと不安の結果、黙って預けてしまったり、症状が落ちついていないのに預けてしまったり、お休みすることができない、という状況になってしまっているのではないのでしょうか。時間の調整がつかない結果、医療機関の受診をすることができない状況になっているのではないのでしょうか。

「保育園サーベイランス」では保育所内の状況が把握でき、有症状者が増加した際には異常を自動判定しますので、感染症対策のタイミングを逃しません。保護者に情報を伝えるタイミングを提示しています。また、周辺の保育所や学校の状況について地図を中学校区単位で表記しますので、自施設内での発生がない段階で、これから発症者が出ることを予見して対策の準備をすることができます。保育所側の「心構え」ができます。そしてこの状況を、正確に保護者に伝えることで、保

護者自身も「心構え」ができます。

つまり、保護者に園内感染まん延防止対策に協力してもらうとは、

(1)保護者を感染症対策をする人々として認識し位置づけること

(2)サーベイランスで得られたデータを解析や解釈をおこない、「情報」として保護者に伝えること

このことによって、

(3)保護者自身に心構えをもってもらおう

ということです。そうして、体制が築かれていきます。

■保護者に心構えをもってもらった場合の園内での対応

「保育園サーベイランス」を導入する前の中野区宮園保育園では、保護者から情報の提供があり、その噂レベルの情報にふりまわされ、本当かどうかを確かめるのに時間がかかっていました(保育界2013年9月号参照)。しかし導入後は、正確な地域の情報があることから、保育所側から保護者に情報が提供されています。導入後に明らかになったことは保護者の理解と協力だったということです。そして、預かりをする際の保護者からのなげない一言「昨日の夜、下痢をしています。食べさせすぎたのかな〜」を聞いた保育士は、職員で昨日の中野区の状況を共有しているので、保護者に「地域内で感染性胃腸炎が流行していますから」と自信を持って説明をすることができ、その上で「様子を見て食欲がなかったり、下痢や嘔吐があるようなら連絡させていただきます」と伝えることができるようになりました。

保護者は今日早くお迎えをしなければならぬかもしれないと心構えができ、仕事の調整をして医療機関受診の用意をすることができるでしょう。そうした結果、保護者の協力を得ることができるのです。

サーベイランスは対策のためです。保護者の理解と協力が困難であることを解決しましょう。保護者に園内感染まん延防止対策に協力してもらう

体制を作りましょう。

■心構えのための時間を提供しよう！

保護者に心構えのための時間を提供していただくと、より協力していただきやすい環境になります。そのためには「保育園サーベイランス」を活用しましょう。

① 園内で感染症が発生 → 「グラフ」で心構えができます。

感染症の流行期間中は、現在、どこのクラスで、何が流行しているのか、その推移を視覚的に捉えることが大事です。数日前からなのか、今日からなのか大事です。増加傾向なのか、減少傾向なのか分かることが大事です。このような状況では直接保護者としてしっかり連携し、家庭内での健康状態を聞き取ることで、今日の数時間以内に対応することがあるかどうかの心構えを持っていただきます。直接声をかけることも大事です。職員間でも連携しましょう。

② 地域で感染症が発生 → 「地図」で心構えができます。

自園内での発生はないものの、隣の中学校区での発生がある、市内での発生がある場合には、近隣地域内での流行を把握しておくことが大事です。近日中に園内に発生がある可能性があるとした準備をしましょう。数日から数週間以内に対応することがあるかどうかの心構えを持っていただきます。掲示板で情報提供をし、疾患についての情報（インフルエンザとは、みずぼうそうとは等）も一緒に情報提供するとより効果的だと思います。職員間でも共有しましょう。

③ 1か月単位の「月報」を作成 → 今年の心構えができます。

月報を作成し、年齢ごと、疾患ごとの欠席状況をまとめましょう。それを定期的に保健たよりで報告しましょう。昨年の同時期前後の内容を一緒に掲載しましょう。昨年1歳クラスであった保護

者が2歳クラスになったとき、昨年の2歳のクラスの状況をみておくことが参考になります。また年初めの保護者会で月報をまとめた「昨年度の状況まとめ」を配布しましょう。しっかり状況がまとめられていることで、新しいクラスに進級した際に、1年単位での心構えをもつていただきます。進級したクラスで年内のいつの季節ごとにこういった対応が必要になるのかということをおおよそ想像することができるでしょう。こうした月報は職員間でもしっかり共有しましょう。

④ 1年単位の「年報」を作成 → 6年間の心構えができます。

年報を作成し、1年間の年齢ごと、疾患ごとの欠席状況をまとめましょう。入園式の際に報告をしましょう。第一子を保育園に預ける保護者は希望と不安がいっぱいです。これからどんな病気になるのか、何歳頃なのか、昨年、一昨年のまとめを提供することで、何歳にどんな病気になるのか、その時に対応が必要になるということをおおよそ想像することができるでしょう。ぜひ、職員間でも振り返りをさせていただくとよいと思います（年報について保育界2013年10月号参照）。

このように、4段階の時間軸で心構えができると、保護者に園内感染まん延防止対策に協力してもらいやすくなります。それが体制づくりです。

最後に、流行期間中にしっかり保護者が協力してくださったと思われれば、そのとき、ぜひコメントを出してください。保護者の皆さんのおかげで園内の感染症対策ができました、と。保護者は、心構えを持って子どもの対応をすることが、園内の対策につながっているのだと感じていただけるものと思います。感染症対策は、一人の先生が一生懸命がんばるものではなく、園全体での取り組みです。その園全体での取り組みは、職員と保護者が連携してこそ成功します。成功の鍵は、(1)保護者を感染症対策をする人々として位置づけ、(2)「情報」を保護者に伝え、(3)心構えをもってもらおう、ことです。